

2011年度

NEC森の人づくり講座(第22期)

実施報告書

第22期 7月3日(日)～6日(水)

Aコース オークヴィレッジノ森林たくみ塾

Bコース キープ・フォレスターズスクール

主 催:公益社団法人日本環境教育フォーラム

協 賛:日本電気株式会社

プログラム運営:森林たくみ塾ノ財団法人キープ協会

プログラム紹介

A コース：オークヴィレッジ / 森林たくみ塾

場所 : 岐阜県高山市清見町

日時 : 2011年7月10日(日) ~ 13日(水)

■ 講座のねらい

環境問題解決のための「具体的行動のひとつ」としての「森の手入れを实践する」中で、自分の内面におきる気持ちの変化を大切にしながら、「実践によってはじめて課題解決へ進みはじめる」ことを実感すること。

■ 講座中に伝えたいこと

知識を蓄えたり考えたりすることだけでなく、課題の解決には具体的な行動に移すことが重要。地球温暖化問題において、森が持つ二酸化炭素固定能力への期待感を理解する。その能力を十分に発揮させるには森づくりを進めなければならない。一人より二人。素人でも束になってかかれば大きな成果を生み出す。そのために、「人の環 = 人を束ねる仕掛け」ネットワークづくりが大切。行動するためには、道具の的確な使用法と安全な作業についての理解が不可欠。

■ そのために大切にしたいこと

蓄えた知識を「腑に落とす」まで実践する。
分かったつもりにならず、「五感」を使って物事を感じること。
実践を通して「手応え」を感じること。

■ プログラム進行表

=====
1日目 7月10日(日) 出合い ~ 知識を入れる器づくり
=====

13:30 受付開始
14:30 開講式 / オリエンテーション / アイスブレイク
15:00 実技「森づくり・導入編」 KYT で危険予知 ~ まずは伐ってみよう
18:00 夕食
19:00 小講義「手を掛けて森を育てる」
21:00 グループ討議「なぜ森の手入れが必要なのか」
22:30 一日のふり返り「森人ブログの記入」
23:00 「森人大交流会」



=====
2日目 7月11日(月) 森と私のつながり ~ 体験を五感で感じる
=====

07:00 起床・広間の掃除
07:45 目覚めの体操
08:00 朝食
09:00 野外講義
「ミクロの視点、マクロの視点」
10:00 実技「森づくり・実践編」
12:00 昼食(お弁当)
13:00 実技「森づくり・実践編 ~ 後編」
17:30 一日のふり返り「森人ブログの記入」
18:00 夕食
19:00 TV 会議による KEEP コースとの交流
20:30 小講義「日本の森を知る」
21:30 トークセッション



=====
3日目 7月12日(火) 森と私のつながり ~手を動かして考える
=====

- 07:00 起床・広間の掃除
07:45 目覚めの体操
08:00 朝食
09:00 小講義「森と人の付き合い方」
10:00 見学「オークヴィレッジのモノづくり」
12:00 昼食
13:00 実技「樹から木へ、そして暮らしの道具へ」
13:30 実技「森のモノづくり」
18:00 夕食
19:00 特別講座「NECの環境活動」
20:30 一日のふり返り「森人ブログの記入」
21:00 森人大交流会



=====
4日目 7月13日(水) 次に繋げるもの ~自分と対話する
=====

- 07:00 起床・広間の掃除
07:30 目覚めの体操
08:00 朝食
09:00 小講義「森人流、事を起こす・環を広げる」
10:00 スライドショー「4日間の活動をふり返って」
10:30 実技「ソロ ~たった一人でふり返り」
12:00 昼食
13:00 全体のふり返り
14:00 閉講式
14:30 プログラム終了



1日目 出会い、再開 ～環を広げる

■ 飛騨に集合



全国の大学、多種多様な学部から集まった学生たち。これから始まる3泊4日の講座への期待をかばんいっぱい詰め込んで、集まってきました。

■ 開校式



森林たくみ塾理事長・佃よりあいさつ。

「3.11以降、人々はものごとのつながりを、よく見るようになった。消費行動そのものが、広告によって「選ばされる」から、自分で「選ぶ」へと変わっている。これからは全てにおいて、「自分」で考え、どう行動するのか、がより重要になってくる。この講座を通して、『している』から『している』へ、行動に移すことの大切さを学んで欲しい。」

■ 実技『森づくり・導入編』 KYTで危険予知～まずは伐って見よう



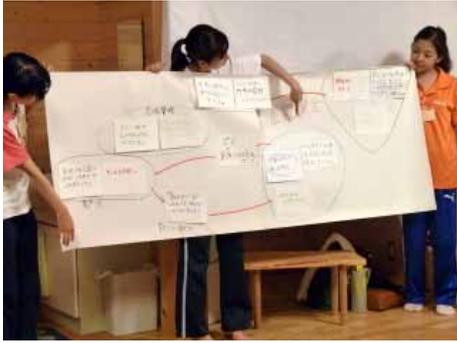
現場に出ると、いつにも増して山の斜面を思ったように歩けない参加者が多いように思える。だが足場の悪い斜面で滑ることは、事前の危険予知で出ていたので、滑って尻もちをついても次の対処はできるようだ。しばらくは斜面になれることも含め、急斜面の森の中をゆっくりと歩いてみる。

先輩たちが手入れをしてきた森は、下草が刈られて木の間隔も適度にあいていて、歩きやすい。その森の中を、解説は一切しないで、「よく観察をしてください」とだけ言って歩いて回った。しばらく歩くと、今まで歩いてきた森とは明らかに様子の違う森に行き当たった。

ここが今回手入れする森。「今まで観察しながら歩いてきた森と同じになるように、この森を手入れしてください」とだけ指示を出して、森の手入れを始めることにした。



■ グループ討議『なぜ森の手入れが必要か』



教えれば、必死に暗記しようとする。状況を把握して、自分で考えて答えを導き出すことがより大切な事と考え、この講座では、安易に答えを与えることをしない。

何の説明もなく、指示もないままに行った森の手入れでは、疑問や質問がたくさんでくるはず。まずは1枚に1つずつ、紙に書き出してみる。それをグループ毎にマッピング。自分とは違う視点、自分とは違う考えがあることに気づくのも大切。

■ 小講義『手を掛けて森を育てる』



歴史をさかのぼり、海外にも目を向け、森と人との関わり方への様々な視点を示します。

「森では生物間の敵対や競争よりも、共生の方が安定しており、資源が取り尽くされることはない。」「母なる地球のために、そしてそこに住むすべての生き物と、七代先までの子孫のために」(ネイティブアメリカン)など、学ぶことは多いのです。

■ 森人大交流会



まずは自我介绍から。配布したプロフィール集片手に、「私は何者でしょう？」の話が進む。飲み物もおともに、当初の緊張感もほぐれ始め、「スポーツ競技の型披露！」がはじまる頃にはすっかりリラックス気分。話題も徐々に広がり、深まり、そして時刻も深まっていくのです。

2日目 森と私のつながり

■ 小講義「ミクロの視点・マクロの視点」



「目の前の作業だけ見ていてはダメ！ 一歩引いたところから、全体として見なくては。森はあくまでもつながりで広がっているんだから。」「見た目も大事」「多少の失敗は、森が受け入れてくれる。それくらいの包容力は持っている。」

森づくりへの視点はそのまま、考え方の視点を学ぶことに繋がってゆく。

■ 実技『森づくり・実践編』



昨日のグループ討議では、森の捉え方、考え方が十人十色なことにも気づいた。それを踏まえて、今日は一日森の手入れ。

森の手入れの内容をグループで話し合い、方針を立てた上で進めてゆきます。

まずはササを刈って歩きやすいように切り開き、その後に木を切っていくという方針を立てたようです。中休みまでに、随分とササ刈がはかどりました。

次に、大きな木の伐倒にも挑戦。倒す方向のコントロールや周りの人の安全管理など、グループコミュニケーションが大切です。



あまりの暑さに、お昼はお弁当を持って近くの小川へ避難。

足を長時間入ってられないほどの冷たい小川で遊ぶ中で、森と水の関係も理解できただろうか？

森で学び、森に学ぶ2日目。頭でっかちだった初日と比べ、自分の体と頭を使って感じたものはどんなことだったろう。



■ TV 会議による KEEP コースとの交流



お互いの参加者の顔合わせ。いきなり英語で仕掛けてみたり、果敢な応酬があったり。それに何年ぶりの思わぬ再会があったり。ここでのつながりが、講座以降も続くことを期待しています。

3 日目 森と暮らしのつながり

■ 小講義「森と人との付き合い方」



森と人との付き合い方を、先人たちに見いだしてみます。例えば水や雪の力(浮く、滑る)を使って、山の木を里まで下ろすこと。そこには、自然との折り合いを無理なくつけていく暮らしのかたちがあります。人の力と自然の力を実にうまく活かす生き方は、私たちが未来に向けておこなうべきことの、とても重要なポイントを教えてくれているようです。

■ 見学『オークヴィレッジ』



生きている木を使う技とは？100年使える家具をつくる技とは？オークヴィレッジのモノづくりを通して、暮らしの中に木を活かすことの意味合いを、見いだします。

まず正面にあらわれたのは、震災復興に木の力を活かすモデルハウス。展示室内に入ると同じ種類の木でも、強度、伸縮性、風合いなどにより様々に使い分けられている(適材適所)実例がいっぱい。

最後に、「木をまるごと活かす」ものとしてのアロマ抽出工房を見学。“木の力”の幅広さと奥深さを実感。

■ 実技「森のモノづくり」



自分たちで伐り出してきた丸太を割って削って箸を作ってゆく。思い描くことと、実際に自分の手を動かしてモノをつくり出すことの難しさ。思いと現実のギャップを実感する。悪戦苦闘のモノづくり。それでも森づくりと暮らしが確実に繋がってゆく。



■ 特別講座『NEC の環境活動』



NEC 環境推進部より社員の方にお越しいただき、NEC が取り組んでいる環境活動についておはなしを頂きました。

就職を控えている学生にとって、企業が環境問題に取り組む姿勢を垣間見ることが出来ると同時に、一企業人としての姿をも見ることができたことは大きな収穫だったようだ。

なかでも、「これからの CSR では、本業でいかに環境貢献できるかが重要」という言葉には、参加者の多くが心を大きくゆさぶられたようだった。

■ 森人大交流会

みんなで過ごす最後の夜です。午後から参加していただいた NEC の社員の方も交え、大交流会が始まりました。

昨年恒例となった、この講座へ応募したきっかけの発表。

「大学の座学だけでは学べない現場での実践を得たかったから。」

「伐って使うを体験したかったから。」

「『森人』というコトバが、ステキ！」

「締め切り1週間前にポスターで見つけて、これだ！と思って。」

「ぶっちゃけ、参加費無料だったから。」



4日目 次につなげるもの

■ 小講義「森人流、事を起こす・環を広げる」

この講座で得たものは、行動に移して初めて生きてきます。行動に移す上で押さえるべきポイント(5W2H)や、人が集まることで大きな力を生み出すこと(数の力)。そして、その時に専門家(プロ)との連携がカギになることを、実例を交えながら解説。

■ スライドショー『4日間をふり返って』

駆け足で過ぎ去った昨日までの3日間を、画像と解説でたっぷりふり返りました。

■ 実技『ソロ～たった一人でふり返り』



4日間、皆で語り皆で行動してきた。これからの2時間ほどは、一人で過ごす時間。自分の中の自分と対話する時間です。人との出会い、森に学んだこと・森で学んだこと、自分の手を使ってものを作ったこと、そして NEC の CSR 活動…。これらを通して自分に見えてきた課題や目標を探る時間です。

■ 全体のふり返り

午前中の「ソロ」を受けて、この講座を通してみんなが得たものをお互いに共有する時間。

「知識がふえたこと以上に、自分が成長できたことを実感。」

「まずはやってみる、自分で答えを出すということが新鮮。間違っても、やってみたことから分かることがある。」

「森について色々な視点を持った人たちとのつながりを得ることが出来た。教室でなく現場で感じる事が大切。」

「みんなと出逢えたこと。ディスカッションで、自分の中に熱いモノがあると発見。」

この講座を通して、自分のハートで感じてくれたコトバ。

■ 閉校式

「考え続けてとどまるより、先ず行動することが大切です。自分から考えて行動しないと、反応は得られません。得られた反応から次の行動を考えてゆく。行動が次の行動を導きだしてゆくのです。学ぶとはそういうことなのでしょう。『知っている』より『している』ですね。皆さんは、この講座を通して『している』森人になることができたでしょうか？」



Aコース:オークヴィレッジ/森林たくみ

塾受講生(22期生)の感想です。

文章の一部を抜粋、加筆をしています。

■「この講座を通して獲得したものは、何ですか？」

HK(東京家政大学)

この講座を通して獲得したものを大きくまとめていうと、「視点を変えること」だと思う。森づくりにしろ、木から道具を作るにしろ、自分の視点だけでは成功しないということを大いに学んだ4日間だった。1日目、2日目の森の手入れは、どんな樹を残すのかをグループ全員で考えた。理想の森づくりとは？環境問題に影響はあるのか？森に生息する虫たちへの影響は？森を手入れするにもいろんな視点で考えなければいけないと痛感した。また、木を用いて道具を作ることも広い視点が必要であった。箸を一膳つくるのにも使いやすさやモノのつかみやすさ、長さを考える必要があった。夜の仲間との討論にも一人ひとり違う視点があることに驚かされた。このように、私たちの周りは様々なもので埋め尽くされているわけで、それぞれ向ける視点を変えていかなければいけないんだと思うようになった。

MO(天理大学)

「まずはやってみる。」この講座を通して、この言葉の意味の大切さを知ることができた。1日目に森へ入って特に説明もなく手入れをしなさいと言われて困った。森を観察して、自分で考えて、自分の答えを出す。この答えを出すというのが重要で、とりあえずやってみなければ何も進まない。やってみるとそれに返事が帰ってきて、一歩進められるのである。もし仮に失敗しても、森は受け止めてくれる。まずはやってみるということは、今後どんな所でも大切な事だ。頭だけで考えているだけでなく、行動してみる、声に出してみる、企画書を作ってみる、ということを実践していきたいと考えている。

KM(法政大学)

今回の講座に参加し、これからの大学生活での学びのヒントをたくさん得ることができた。大学の講義では、なかなか理解しにくかった森林やその他の環境の問題が、実際に現場へ訪れて肌で感じるにより、少しずつ理解していったと思う。フィールドへ出ることの大切さを改めて感じた。今までは森を”森という単位”でしか見て来なかったが、この講座を通じて、”木という単位”を意識することができた。こうして森へ入ってみると、その木の役割や状況、または隣の木との関係など様々な視点を得られ、自分自身の視野が広がりを持ち始めた。

また、様々な考えを持つ同じ大学生に出会い、話すことで、自分自身にはなかった考え方を知ることができ、参加して良かったと思う。これからの大学生活では、環境問題の知識をつめ込むだけではなく、こうして現場に来て感じることを常に心がけていこうと思う。

HS(跡見学園女子大学)

森を循環させて健康な状態にすることが森を手入れする意味だと、あらゆる場で耳にする。しかし私は今回の講座で、もっと単純な理由を見つけた。それは、地球という生命舞台上で人と森が共生する以上、互いに協力しなければならないから、ということ。森は私たちのCO₂を減らすだけでなく、心の支えや美を教えてくれるなど、豊かさを与えてくれる。だから私たちも森がいつまでも元気でいられるように愛情を込めてサポートすることが大切だと思う。実際に山の笹を刈ることももちろん大切だが、日常的に木のアロマオイルを利用することも間接的なサポートになるだろう。また、木製家具で人は木のぬくもりを、木は人のぬくもりを互いに感じあうのも大切

なことのひとつだと思う。気をつけるのは、森は木だけではなく、動物や虫も大切な存在、つまり、私たちが愛情を込める対象だということ。

CY (東邦大学)

私は、今まで海の中でも干潟という部分を中心に環境問題を考えてきました。今回、この講座を通して、山という新しいフィールドからも意見を想像することができるようになったと感じています。人間の生活するスタイルが変わってしまっても、山は維持する必要がある。山を使いビジネスをする方法をもっと増やさなければ、山を守ることが出来ないと思いました。こんな考えを持つようになったのは、一緒に参加した仲間のおかげです。それぞれ違うことを勉強しているけど、積極的な気持ちはみんな変わらず、とても向上心がありました。ディスカッションの際も、自分の意見をしっかり持ち、新しい考えや視点を知ることができました。向上心のある仲間に出会えたことで、改めて将来は自然の魅力を伝えられる人になりたいと感じ、努力していこうと思えました。

KK (佛教大学)

講座の4日間では、今まで知らなかったことやしたことがなかったことを、たくさん知ったりしたりすることができた。その中で自分が得たものはとても多い。自分が得たことを主に2つ上げたいと思う。

まず、自然のつながりの中での森の大切さ。森がなかったらどうなるか、森があるからどうなるか。身の回りにある森からの恵みはたくさんある。そのすべてが森との関わりを持っているものかもしれない。だから森がないといけなし、大切にしないといけなし。森を通して、大きなつながりが解った。

次に、小さなことから行動すること。行動できることがあるということが分かった。森と他のものがつながっているからこそ、小さな行動も意味を成す。小さなものから大きなものを考えることも大事。自分に行動できることを考えると、それは伝えてゆくことだと思う。小学校の教育の中で、環境問題/自然との繋がりについて伝えてゆきたい。このようなことを主に理解できたと思う。参加できてよかった。

KA (名古屋短期大学)

今回の講座を通して私が得たことは、つながりを大切にすることでした。つながりがあったから森についての考え方が変わったり、色々な考えを持った人がいることを知ったり、モノづくりからつながりを見ることが出来るようになったり、全く違う分野・専攻の人達に保育のことを知ってもらえたりと多くの点のつながりが見え、全く関係ないと思ってたところにも実は関係していたりと、なんだか少し優しくなれるような気がしました。

また、森の手入れをするということがあまり分からなかった初日は、木を伐ることに罪悪感を感じました。でも講義を受け、みんなでディスカッションしてから考えていった作業の終了後に見渡した森は、光が降り注いで風が通っていて、森が優しく喜んでいるように感じ、人と森は一緒に生きてゆくのだということを感じました。

そして私がこれから保育者となる上で、自然のいいところも悪いところも知って、子供たちが成長していく中でどううまく自然と付き合っていけるかきちんと伝えられるようになりたいと思いました。また、自然が大好きなメンバーと一緒に過ごして何倍も楽しかったので、子供たちにも大好きな友達とたくさん遊んで、自然という存在が仲間との中でももっとも大きな存在になるよう関わっていきたいです。そして地域～園～家庭のつながりをうまく自然の中で活かしていけるように保育していきたいと強く思いました。

CY (名古屋芸術大学)

この講座に参加して、自分の今までの環境問題への意識や森林への意識が如何に浅はかであったかを思い知りました。森での体験や講義、そして全国から集まり出逢った仲間との語り合いの中から、膨大な情報とそのひとつひとつへの多くの視点と考え方があることを知り、とても刺激的な4日間でした。森に関して、全くの素人である私でも、森の手入れを体験し、「良い状態の森」を知り、いつもどこか人任せになっていた環境/森林の問題を改善していくということに、小さくとも関わる事ができたこと、出来るということが分かったということは大きな収穫であり、嬉しいことでした。一人ではできなくても、たくさん人が集まれば大きな成果が生まれる。大きな事はできなくても、自分ができることやるべきことを考え、先ずやってみることの大切さを知りました。

この4日間、本当に素晴らしい経験をしました。感じたこと考えたこと、他では学べない格別なものでした。掛けてもらった言葉、これからの人生を大きく変えるものでした。参加して本当によかったです。

KF (東京家政大学)

私が、この講座を通して獲得したものは、人とかかわることの大切さと、まず行動することが大事だという意識が芽生えたことです。この講座に参加してきた人たちは、今までかかわったことのないようなタイプの人が多く、最初は不安になりましたが、たくさんの方の意見を聞くことで一人では思いつかなかったことについても考えることができました。いろいろな人の話を聞くことで自分の視野が広がるということも学びました。また私はこの講座を通して「自然が大好き」だということを再確認しました。そして、私が一人で自然を守りたいと思っていても、協力してくれる“みんな”がいないと実現できないことに改めて気付かされました。まずは私がこの講座で学んだことをたくさんの方に伝えていくことが第一歩だと思います。これからは何事も積極的に行動に移していきたいです。

NEC 森の人づくり講座 2011・夏(2011/07/10～13)

Bコース(キープ・フォレスターズ・スクール)



報告書

講座のねらい

環境問題解決の第一歩は「コミュニケーション」から。自然と人、人と人をつなぐ“インタープリテーション”の考え方や手法を学びながら、より良いコミュニケーションのあり方を考えます。

環境教育について学ぶ(企業やNPOにおける環境教育の取り組みについて知る)
インタープリテーションの考え方や手法について学ぶ
自分自身と環境教育との関わりについて考える(自分なりの言葉で説明できるようになる)
全国の仲間とのネットワークを作る
自分自身のねらいを達成する

そのために大切にしたいこと

体験から学ぶこと
お互いから学ぶこと
楽しみながら学ぶこと

4日間のテーマ

- 【1日目】 出会う (人との出会い、自然との出会い、自分との出会い)
- 【2日目】 つなぐ (人と自然とをつなぐ、人と人をつなぐ)
- 【3日目】 気づく (体験から気づく、お互いから気づく)
- 【4日目】 ふりかえる (体験をふりかえる、日常につなぐ)

スケジュール

1日目 / 7月10日(日) テーマ: 出会う

- 14:30 開講式
- 14:45 チェックイン
- 15:00 講座のウォーミングアップ / アイスブレイキング
- 15:45 休憩
- 16:00 生活案内
- 16:15 自己紹介と目的の共有化
 - 1) スライド「キープ協会紹介」
 - 2) 自己紹介シート作り
 - 3) 講座のねらいとスケジュール説明
- 18:00 夕食

19:15 講義:環境教育概論
20:30 1日を整理する時間
20:45 終了
自由交流会

2日目 / 7月 11日(月) テーマ:つなぐ

08:00 朝食
09:00 実習:環境教育プログラムの体験
12:00 昼食
13:00 実習:コミュニケーションを考える
13:45 休憩
14:00 講義:インタープリテーション概論
14:45 実習:環境教育プログラムの実施&相互評価 / オリエンテーション
15:00 実習:環境教育プログラムの実施&相互評価 / 準備
18:00 夕食
19:15 Aコースとのインターネット交流
20:00 1日を整理する時間
20:15 終了
自由交流会

3日目 / 7月 12日(火) テーマ:気づく

07:00 実習:環境教育プログラムの実施&相互評価 / 準備
08:00 朝食、21期生チェックアウト
09:15 実習:環境教育プログラムの実施&相互評価 / 実施と相互評価
11:45 実習:環境教育プログラムの実施&相互評価 / ふりかえり
12:30 講義:インタープリテーション概論
13:00 昼食
13:45 21期生クロージング
14:00 21期生お見送り

~以降、22期生のみ~

16:00 CONEリーダー登録について
16:15 講義:安全管理
17:00 NECの環境経営(NEC環境推進部兼環境エネルギー事業推進部 鹿島さん)
18:00 夕食
19:15 環境教育プログラムの体験 ナイトハイク
20:15 1日を整理する時間
20:30 終了
自由交流会

4日目 / 7月13日(水) テーマ:ふりかえる

08:00 朝食、チェックアウト
09:15 補いの講義
10:15 休憩
10:30 フリップボードディスカッション
11:15 休憩
11:25 講座のふりかえり・わかちあい
12:15 昼食
13:15 22期生クロージング
14:00 終了、解散

1日目：出会



開講式

今回Bコースに応募した22期生10名と、前回Aコースに参加した21期生2名、合わせて12名の学生が、会場となるフォレストスターズキャンプ場ハリスホールに集まった。緑に囲まれたこのキャンプ場を舞台に、いよいよ4日間の講座の幕が開く。



講座のウォーミングアップ(アイスブレイキング)

まずはお互いを知り合う時間。開講式、そしてチェックインの後、会場周辺を散策。湧き上がる入道雲に、夏らしさを感じる。ボールを使ったゲームなどを通じて、一緒に身体を動かしながら、すぐに打ち解けあうことができた。



自己紹介と目的の共有化

室内に戻り、自己紹介シートを作成。講座に来た動機や理由はそれぞれ異なるが、環境教育やインタープリテーションについて学びたいという意欲は皆同じ。お互いのことを知り合うと同時に、自分自身の目的を整理する時間にもなった。



講義：環境教育概論

最初の講義では、まず環境教育についての考え方を整理する。「環境問題はなぜ起こるのか?」「環境教育とは何のためにあるのか?」「自分なりの言葉で環境教育を説明するには?」講師から投げかけられた問いを、この4日間で考えていく。

2日目：つな



環境教育プログラムの体験

キープ協会スタッフによる環境教育プログラムを体験。葉っぱを使ったジャンケンなど、遊びを通じて、葉っぱの形の不思議さや多様性に気づく。夏空の強い日差しも、森の中に入ると、吹き抜ける風が涼しい。清里の森の気持ちよさを、全身で感じる事ができた。



実習：コミュニケーションを考える

今回の講座のテーマの一つでもある「コミュニケーション」について、実習を通じて考える。話し手が一方的に話す場合と、話し手と聞き手とでやり取りできる場合で、意思疎通にどのような違いがあるかを比べる。コミュニケーションは双方向で成立することを、確認することができた。



講義：インタープリテーション概論

先の実習から、より良いコミュニケーションとは何かを考えた。そして、インタープリテーションの定義や手法についての講義。いよいよこれから、小グループに分かれて、環境教育プログラムを作り上げていく。



実習：環境教育プログラムの実施&相互評価 準備

この実習では、すでに世間に紹介されているプログラムを実演するのではなく、一からプログラムを組み立てるのが、今回の大きな課題。机の上で考えているだけでは始まらない。まずは外に飛び出して材料探し。プログラムの目的は何か？流れはどうするか？時間管理は？夜まで議論は続く。



Aコースとのインターネット交流

同時進行で開催しているAコース(オークヴィレッジ/森林たくみ塾)とのスカイプを使った通信。21期生は、森林たくみ塾のスタッフとカメラ越しに、およそ半年振りの再会。別々の場所にいながら、同じ時間を共有している仲間との出会いは、お互いに刺激を受けたはず。この交流が今後も様々な形に発展することを願うばかり。

3日目：気づ

実習：環境教育プログラムの実施&相互評価

開始直前まで時間をかけて準備をしたプログラム。いよいよお互いに発表する時間。自らがインタープリターの立場になって、参加者の様子や反応を肌で感じ取っていく。どのグループも内容に工夫を凝らし、お互いに楽しみながら発表があった。実施後は、「もう一度同じプログラムを同じメンバーとするなら」と仮定して、参加者からのフィードバックを参考に、具体的な改善案を考えた。



講義：インタープリテーション概論

自らがプログラムを実施した後、改めてインタープリテーションとコミュニケーションについて整理する。インタープリターは、今ここで起きていること、そして参加者の心の動きを、それぞれ観察することが必要だと学んだ。

21期生クロージング

22期生より一足先に、21期生2名は、講座最後の時間を迎えた。A・B両方のコースを受講したことで、今後、OB同士の交流の架け橋になってくれることを期待しつつ、笑顔に溢れたエンディングとなった。



講義：安全対策

この時間からは、22期生10名で講座を続ける。自然体験・野外活動では欠かすことができない、安全に関する講義。自然体験には危険がつきまとう反面、自然の中で行われる環境教育が、安全教育の側面も併せ持つことを学ぶ。また、危険には「目に見える危険」と「目に見えない危険」があり、疲れや緊張といった「目に見えない危険」への対策も必要であることを知った。



講義：NECの環境活動

NEC環境推進部の鹿島さんから、企業における環境への取り組みについてお話をいただく。企業人の声を直接聞くことができる機会とあって、熱心に耳を傾けていた。講義の後、夕食や夜の交流会にもご一緒いただき、様々なお話を伺うことができた。

4日目：ふりかえ

環境教育プログラムの体験：ナイトハイク

講座最後の夜は、わずかなライトの光を頼りに、ナイトハイクへ。暗闇の中、すぐ隣に仲間の存在を感じながらも、一人静かに森の中に寝転がる。ふと、これまでの、そしてこれからの自分について考えている自分に気づく。



補いの講義

これまで講義や実習を通して学んできたことを整理する時間。大事なのは、学んだことをどう自らの行動に結びつけるか。講師からは最後に、「楽しむことが一番の原動力。楽しいことは続けられる。」というメッセージが送られた。

フリップボードディスカッション

講師・スタッフへの質問ではなく、学生から他の学生への質問という時間に。お互いに聞いてみたいことを投げかける。「将来やりたいこと・夢は？」という問いに対しては、自分なりの今の答えを出しつつ、みんなに宣言することで、自分の思いを確かめることができた。



22期生クロージング

4日間の講座は無事に終了。天候にも恵まれ、清里の自然を満喫することができた。密度の濃い時間を共にした10名。全国各地にできた仲間とのネットワークを、これからも大事にしていきたい。

MT(神戸女学院大学 4年)

NEC 森の人づくり講座は、座学よりも体を通して学ばせてくれるグループワーク・森の中での体験が基本なので、学びが体・心に沁みこんでいきます。与えられる課題は、環境教育・自然に関するものなので、ほとんど答えのない問題ばかり。だからこそ、それぞれの学生が真剣に問題を考えて、意見を交わします。

この講座を通して一番良かったことは、真剣に将来について語り合えたことです。人生の岐路に立ちそれぞれの悩み・思いを抱える仲間が集まるからこそ、悩みや思いを語ることができ、それについて真正面から考えてくれる仲間がいる。この安心感から仲間同士の信頼が生まれ、3泊4日間、充実した日々を送ることができました。

4月に就職活動をやめ、本当にやりたいことは何か、自分の価値観のどこを一番大切にしたいのか考えてきました。中学校のころから思い続けた「人と自然に関わりのある仕事に就く」ということを軸に人と自然とどう関わるべきかの答えとして「自然を敬い大切に思い・扱う」ことを大切にしたいと考えていました。その思いが引っかかって企業で働く意味がわからなくなり、また、院に進学することは親の意見が気になって身動きが取れない状態にありました。

そんな私の背中を押してくれたのが、この講座でした。この講座は私に未知の世界に飛び込むきっかけを与えてくれました。そして何より環境教育に携わるかけがえのない仲間を得ることができました。この講座のおかげで自分の夢が数倍に膨らんで、一気に開花したようです。私も出会った仲間が、将来それぞれの立場で活躍するときに一緒に仕事がしたいと思います。

私は植物・生態系の分野で研究者として活躍したいと考えています。学生のうちにNPOでも活動したい。将来、講師や大学教授となって市民・企業と関わりながら生態系の保全、環境教育に携わりたい、街づくりにも取り組みたいと考えています。(この講座を受ける直前にカキツバタ群落(兵庫県天然記念物)保全委員に選出されたのも大きな後押しになりました。)

こんなすばらしい人生のターニングポイントを与えてくださった NEC 担当者様、関根さん、まーさん、もぐさん、もんさん、よしこさんどうもありがとうございました。

YN(武庫川女子大学 3年)

「人と人のつながりを大切にできる人になりたい」。この考えが、今回の講座を通して得た私の財産です。

4日間、大自然の中で過ごし、自分の無知を実感しました。毎日が新たな発見の連続でした。そして、個性あふれる仲間と「共に」過ごし、様々な考え方を知ることにより、自分自身と向き合うこともできました。

自然とのコミュニケーションで私が最も好きであったのは、ただ何もしないで「自然のそばにいたいこと」です。五感を通して、自然は私に「癒し」をあたえてくれました。清里から帰り、まず都会を五感で感じてみました。すると、自然と都会にはあまりにも差異があり驚きました。私が大好きになった草のいい香りを始め、森林のマイナスイオン、木漏れ日、沢の流れる音、鳥や動物たちの声はありません。しかし一方で、都会にも緑はあり、空に浮かぶ雲は美しいと気付きました。なんだか嬉しくなりました。そして、今私に出来ることは、日常生活やボランティア等を通して、自然とのコミュニケーションの方法を伝えることであると分かりました。方法さえ伝えれば、自然は人にメッセージをくれるのだと分かったからです。

人間同士のコミュニケーションにおいては、「心地よいコミュニケーション」を学びました。それは、「相手の意見を否定し合わない関係」の上に成り立っていることが分かりました。「否定」がないので、それぞれの個性を生かした発言が、沢山飛び交いました。意見溢れるディスカッションをし、協力して一つのプログラムを作成する過程は、本当に楽しく、心地のよいものでした。

私は将来、教師になりたいと考えています。今回の学びを生かし、心地よいコミュニケーションの場をつくることのできる人間に、私はなりたいです。よって、私は「教師」という立場から環境教育に携わっていきたく考えます。

初めに、このような場を提供して下さったNECとキープ協会の皆さま、ありがとうございました。本当に貴重な体験をさせていただきました。今回の講座を通して自分の将来について考えることが出来ました。そして全国に仲間が出来ました。

私は進路について環境教育活動を行える職に就きたいと考えNPOや自然学校といった所で働きたいと思っていました。しかし、何かモヤモヤとした気持ちが消えませんでした。やりがいがある仕事だと分かっているつもりでもあります。現実問題、NPOという形態が多いこの業界で、給与体系や雇用状態の不安定さなどがあげられ、だからこそ厳しい業界の中で本当にやる気がある人しか生き残れない業界だと私は感じていました。まだ、自分自身この業界に挑む踏ん切りが出来ていないのかと思うところもありました。その結果1人で煮詰まってしまう思考停止状態でもありました。

そんな経緯もあり、いろいろな考えを知りたいと思い参加しました。自分が疑問に思っていることを話すと真剣に言葉を返してくれる。流す事も無く答えが返ってくるのがこの講座で一番うれしいことでした。みんな同じような悩みを持ち、将来のことや今自分がかかわっている事について真剣に話していました。新しい考えに触れたり、現場で働いている人たちの話を聞いて、自分でも一皮むけたと感じています。働くと言う事を私はライフワークだと思っています。人生の大部分を占める時間だからこそ、自分がやりたいと思う職業に就きたいと思っています。今までのモヤモヤとした気持ちは不安や心細差から来ていたのだと思います。

今回の講座を通じて心強い仲間達が出来ました。全国で頑張っている仲間達がいるのです。くじけそうになった時はこの仲間達に助けをもらいたいと思います。そして自分の夢に向かって一歩ずつ踏み出していきたいと思います。

今回、私が参加させて頂いた森の人づくり講座では、フィールドに出て、周りにある自然を使って行う環境教育プログラムの体験や、その体験を踏まえて自分たちでプログラムを考えて作り、実際にやってみるという実習、ナイトハイク等の自然体験などの参加・体験型学習を中心としながらも、環境問題・環境教育・コミュニケーションについての講義や企業での取り組みについてのNECの方によるお話、学生相互での意見交換により、体験を体験で終わらせない、環境教育についての実践的な学習をすることができました。

以上に挙げたような、今回の講座での体験を通じた学習を踏まえて、今後、環境教育活動にどのような形で関わっていくかということについては、とりえず短期的な視点で考えた際は、今回の講座を通じて、環境教育というものは資格を持っている人しか出来ないというのではなく、誰にでも実践することができるということを学んだので、まずは自分が所属しているサークルやゼミなどで実践してみて、まずは自分の周りから、環境教育・環境問題への関心の和を広めていきたいと考えています。それと、自分自身がたくさんのことに関心を持つことが、人に伝える仕事であるインタープリターにとって(おそらくインタープリターに限らずすべての仕事にとっても)重要なことであると感じたので、「実践」という言葉を一つのキーワードとして、残りの大学生活を有意義に使う様々な分野のことを体験しておき、自分自身の関心をより広く、より深くしていきたいと思います。

また、長期的な視点で考えた際は、私は現在3年生で就職活動を見据えていく時期でもあるので、現時点では、社会人になった時にどのように環境教育に関わっていくかについてはまだ模索中なのですが、今回の講座での様々な体験やキープ協会の職員さんや実習生の方々、他の参加者の方々とお話しさせて頂いた事により、今後につながる多くのヒントを得られたので、長期的な視点で見た際の環境教育との関わり方については、今回の講座で得たヒントを基にこれから考えていきたいと思っています。

「多くの人が環境に興味を持ってもらえるきっかけづくり」

今後の環境活動で、多くの人が自然を好きになってもらうきっかけ作りを、自分のペースで長く活動したいと思っています。私は今まで、愛地球博記念公園でインタープリターのサポート活動を行っていました。自分のインタープリテーションの力をつけたいと思い、今回の講座を受けました。しかし、来年から環境に全く関係ない会社で働くことになっており、今までのように環境活動に取り組むことができなくなります。講座を受けるまでは、来年度から時間がなくなり、インタープリテーションの勉強をすることができなくなるので、環境活動はあきらめようと思っていました。しかし、今回の講座で、誰にでもインタープリテーションができることを知りました。私は今までインタープリテーションは特別なこと

で、練習を積み重ねないとできないものだと思っていました。しかし誰もがインタープリテーションになれることと、実際に自分がアクティビティを作ったことで、私でも私なりにインタープリテーションができるとわかりました。また私はインタープリテーションを行うときは、自分が頑張ってお客様に伝えたいと思えないと思えないと思っていました。しかし、夜の森の中で過ごした時に、自然の偉大さを感じました。自然は十分魅力的で、お客様と自然の橋渡しをすれば良いだけだとわかりました。私は、私にできるインタープリテーションで普段自然とふれあえない人に、自然を感じてもらおうお手伝いをしていこうと思います。

私は他のメンバーのように、環境活動を中心にはできません。でも自分のできるペースで、環境に興味を持つ人を増やしていきたいと思っています。

K S (大泉保育福祉専門学校)

非日常的でも面白かったです。普段は専門学校で同じ方向を目指す学生と過ごしているので、今回いろいろな分野を専攻する学生さんと交流できたことは刺激になりました。「環境教育」を軸に様々な視点で話し合ったことは、私個人や私が携わろうとしている保育の世界と各分野との関連を感じ、また客観的に考える機会になりました。子ども達に自然の中で遊びながら自然に親しみを持ってほしいと思ったことで、私は環境や自然に興味を持ちました。他の学生さんは住環境、企業の環境活動、生物や植物といったことがきっかけになっているようでした。切り口は様々ある、それは専門分野や興味だけではなく、ライフステージが変化すると環境との関わりも変化することに繋がると考えさせられました。学生の立場、社会人としての立場、家庭を築いた時...。一生同じ関わりが続くのではないことは、非常に楽しみになります。今回参加をしたからこそ、この事に気付いたのだと思います。

また、参加者自身が環境プログラムを作成・実施そして参加することで、前日までの講義や体験をどのように感じているのか、いままでどのようなことをしたり感じたりしてきたのかを交流することができたと思います。出会って2日の仲間2人と一つのプログラムを作り上げることは、はじめは難しいように感じました。なぜなら、自分と同じ部分よりも違う部分を探すほうが簡単に見えたからです。でもそんなことはあまり関係なく、この違う部分がプログラムの内容を考えて進めていく上で非常に重要に感じました。自分の視点では見えないものや感じられないことを、2人の視点から知ることができました。講義の内容を、実践を通して体得することができる講座でした。

私はこれから保育士として、乳幼児や児童の保育の世界で生きていくつもりです。今回の講座に参加した事で、子ども達と自然との関わり方の幅を広げていくことができそうです。遊びだけではなく生活の様々な場面で、そして身体を動かすだけではなく感じたり考えたりする遊びにも可能性を感じています。講座や環境プログラムの実践で学んだことは、今後の実生活や保育の実務でも大いに役立つと思います。実りの多い3泊4日でした。

ありがとうございました。

A S (千葉大学)

仕事として

身近な自然と人をつなぐ

今回の講座では、清里という豊かな自然環境がある中で、自然の面白さや不思議さ、怖さなどを体感することが出来ました。

私はこの体験を、都会に残された自然環境の中でもできるのではないかと考えています。例えば公園や身近な里山、また農地などでも、植物が主体となる環境であればそこに生態系が生まれ、多様な生物がすみ、地域の人にとっては自然を感じられる貴重な場になると思います。

体験の中で行った、葉っぱの形の多様さや生き物の生息環境について感じられるものなど、都会でもできるアクティビティを考え、都市の中で住んでいる場所に近い身近な自然環境とその周辺に住む人々をつなぐ役割を担っていききたいと思っています。

様々な主体をつなぐ

環境教育は一人ではできないことを講座の中で学びました。企業や行政、NPO・NGO、学校、市民など、多様な主体が協働してこそ成り立つものであることがわかりました。

私は身近な自然環境と地域住民をつなぎたいと考えていますが、なかでも公園の管理を行いたいと考えて

おり、対象となる公園の維持管理やイベントなどに多様な主体を巻き込めるような人になりたいと考えています。

そのためにも、多くの人に公園の価値を知ってもらえるよう働きかけていきたいと思っています。

私生活で

積極的な情報収集

就職して忙しくなったとしても、環境に対する関心を常に持ち、アンテナを張っていようと思います。講座の中でも「無関心」が一番怖いことと聞き、まずは自分がそうならないようにしたいと思いました。

友人・子どもたちと自然を楽しむ

関心を持ち続けるためにはやはり楽しむことが大切です。周囲にいる友人や同僚、また将来は自分の子どもなど、自分の周りにいるたくさんのひとたちと、自然のなかで楽しく遊びたいと思います。

その中で、環境に関心を持つ人たちの輪を広げていきたいです。

NA(早稲田大学)

私は今回の講座に参加して、「気づく楽しさ」を周りに伝えられる人になりたいと強く思うようになりました。

そもそも私がこの講座に応募した理由は、環境関連企業への就職活動に違和感を抱く中で、「現場に近い環境活動を体験してみたい」「自然の中で働く人のお話を聞いてみたい」と思ったからです。環境保全に関わりたいとは思いますが、どうやって関わろうか、どんな関わり方があるのだろうか それを考え、学ぶために参加しました。

実際に参加してみて、とても多くのことを講義・体験・他の参加者の皆さんから学びました。中でも特に印象的だったのは「最も恐れるべきことは無関心」というお話でした。無関心だと何も疑ったり不安に思ったりすることはなく、環境問題は「問題」でなくなってしまう。それを抑止するものが心を動かす「感受性」で、それを促す存在がインタープリターではないかということを知りました。私はこのお話にとても心を動かされました。これまで私は「環境問題は皆が気にしているもの」という前提を心の中で持っていました。でも皆がそうではなく、問題解決のためには関心を持ってもらえるよう、自然の魅力や今起きていることを受けとめ・気づき・発見することが大切なのだということを知りました。

このような学びから、私は環境に限らず、周囲のモノ・ヒトに「気づく」ことの楽しさ・大切さを伝えていけるようになりたいと思いました。今回、実際に自然の中で環境教育プログラムを受けたり作ったりして、現場で働きかけることは素敵だなと感じました。しかしその一方で、その様なプログラムに参加してくれるのは、もともと自然環境に少し興味を持った人がほとんどなのではないかとも思いました。だから、私はもっと無関心な人に関心を持ってもらえるよう、現場・問題へのアクションにたどり着くまでの「きっかけ」「気づき」作りを出来る人になりたいと思います。卒業を来年に控えた今、それを企業人としてやるか、NGOの一員としてやるか、副業としてやるか…はっきりとした立ち位置はまだわかりません。でも、しっかり自分と向き合いつつ行動に移していけば、きっと道は開けると信じています。これからいろいろと試しながら、じっくり考えていこうと思います。

長くなりましたが、4日間ありがとうございました。同じような悩み・考えを持ちつつ、それぞれまっすぐ進もうとしている仲間に出会えたことがとても嬉しかったです。今後ともよろしく願います。

AS(東海大学)

今回 NEC 森の人づくり講座キープ・フォレスターズスクールに参加し、少し前から持ち始めていた「インタープリターになりたい」という自分の思いを、確かなものにすることができた。

私は元々、環境問題解決に貢献したいという漠然とした思いを持って大学に入学したが、大学での勉強を進めていくうち、自然と生物に特に興味を抱くようになり、生きものたちと彼らの棲みかを守ることのできる人間になりたいと思うようになった。しかし、では一体将来具体的にどんな職業としてそれをなしていくのかということについては、依然漠然としたままであった。だが、インタープリターという仕事との出会いによって、自分は自然も好きだが、同じくらい人も好きだ、ということに気付くことができ、「人と自然をつなげる」ことができるようになったと思った。

今回の講座では、自然を観察したり、それを自分たちで解釈したり、実際にインタープリテーションの実習を受けることによって、上記の「人と自然をつなげる」ということについて、自分の中で具現化することができた

思う。

私は今回の体験を通し「伝える」こと、「つなげる」ことの難しさを知ると同時に、伝えようと努力することの大切さを思い知らされ、これまでぼんやりとしか抱けていなかった環境教育に対するイメージの土台ができたように思う。だからこそ、これまで以上にインタープリターに対する思いを強くすることができたとし、将来は、実際にインタープリターとして環境教育活動の一端を担っていきたく強く感じた。そのためにも、これからも身近な自然や生物に今以上に触れ、更に、今回の講座での経験を生かしてそれを第三者にいかにして伝えるかということについて、日々考えていかなければならないと思っている。

NH(佛教大学)

この度は、2泊3日間という短い期間でしたが、本当に貴重な体験が出来たと感じています。ありがとうございました。

前回のオークビレッジでは主に自然と人間の付き合い方について実際に森に入っの管理・活用などの実習、そして今回のKEEPでは自然を通して自然と人、人と人を繋げる役割・方法に関しての実習など二つの観念の講座を体験させていただくことで自分としては自然に対する視野が広がったと実感しています。何より、二つの講座に参加させていただくことにより日本全国様々な地域の方との出会いは自分にとって大きなものになったと思います。一人一人の考え方、感じ方が違い、それにより再確認させられることや、また自分にとって新たな発見となったなど、全てが自分にとってのプラスとなったように感じ、とても勉強になりました。この出会い・経験を今後も大切にしていきたいと思っています。

私は、大学時代から様々な環境活動に参加し、勉強してきました。それは、『将来自分の子供に自然の大切さ、付き合い方を伝える』という自分なりの目標を持っているためです。もちろん将来の目標が自分の子供ということであり、そのために、現在多くの出会いや知識を得られるように日々積極的に活動しているつもりです。その都度持っている知識を出来るだけ多くの人に伝えていけるように努めています。しかし「伝える」ということがまだまだ未熟な私にとって今回KEEPで勉強させていただいたことはとても興味深く感じ、また何より講座を終えて少し成長できたという自信にも繋がったと感じています。

私は環境の大切さについて「伝える」ということはもちろんなのですが、「感じてもらう」ということに対して特に意識しています。そのため、どのような形とはまだ分かりませんが、今後自分が関わった自然・風景を見る、また知っていただくことでその良さを多くの人に感じていただけるような活動をしていきたいと思っています。そのため今回の講座の中で、実際に自分たちで環境教育を企画するという実習では、受ける相手がどれほど自然の良さを感じてもらえるかを考えながら提案していたことと思います。

しかし、「伝える」に関しても「感じてもらう」ことに関してもやはり、その分の知識が不可欠であるということが今回の講座で改めて感じさせられました。それを感じたのが、スタッフの方の実際の環境教育を体験させていただいたときのことでした。とても単純にも関わらず、斬新で自然に対して考えさせられる企画ということに、とても興味深く感じました。自分にはある程度自然に対して勉強したつもりでいましたが、この企画を体験させていただいたことで、自分がまだまだ視野が狭く、無知であるということを実感させられ、さらに知識がほしいという欲求を持つきっかけとなりました。現在、まさに大学院で緑について勉強しているのですが、今回の講座への参加により、さらに自然に対する知識をつけ、様々な角度からの視野を身につけられるように努めて行こうと思います。

この度は急な申し込みではございましたが、本講座に参加させていただき、本当にありがとうございました。今後もこの経験を活かしさらなる向上に努めていきたいと思っています。